

滋賀県平和祈念館 年報

第4号

(平成27年度)

はじめに

滋賀県平和祈念館は、平成 24 年 3 月、「語りつぐ 平和へのねがい」を指針として、県民のみなさまの大きな期待と希望をになって開館しました。

開館の初年目にあたる平成 24 年度の活動（23 年度分を含む）については、『滋賀県平和祈念館 年報』第 1 号を平成 25 年 12 月に刊行し、以後、各年度の活動については、それぞれ『年報』第 2 号（平成 26 年 7 月刊行）、第 3 号（同 27 年 7 月刊行）にまとめ、報告したところです。本号では、ひきつづき平成 27 年度の活動をまとめています。

本館では、「モノと記憶の継承」、「自らできることのきっかけづくり」、「県民参加型の運営」という三つの基本方針のもとで、県民の戦争体験を継承する事業として、展示事業をはじめ、資料収集保存、普及啓発、平和学習支援、ボランティア活動支援などの諸事業を展開しています。

平成 27 年度の展示事業としては、第 11 回企画展示『滋賀県民の 15 年戦争』、第 12 回企画展示『空襲と疎開』、第 13 回企画展示『戦時下の滋賀師範—昭和 18 年の卒業生—』のほか、特別企画展示『県民の戦争体験』や地域交流展示『彦根西高等学校の戦時に描かれた絵画展』などを行いました。そして戦争体験聞き取り調査や収集資料の整理は引きつづき精力的に続けられています。

平成 27 年度の普及啓発事業では、戦後 70 年という節目の年を迎えて、田原総一郎氏による特別講演会「戦後 70 年に語ること」を開催したほか、吉田裕一橋大学教授による平和学習講座、原田敬一佛教大学教授による大人のための歴史教室、戦争体験者のお話会や体験学習イベント、戦争遺跡見学や映画会、ピース・スクール「平和の学校・あかり」の通年開催、そして子どもピースメッセージ・コンクールや自分史づくり講座など、大人から子どもまでが参加できるさまざまな事業をおこないました。平和学習支援事業では、学校生徒の来館学習や出前講座にくわえて、パネル展示などをつうじた地域への平和学習支援もおこなっています。

本館ではボランティア活動もさかんで、現在の登録メンバー約 60 名は語り部・語り継ぎ部活動をはじめ、8 つのグループ活動があり、本館のさまざまな事業で協働がすすんでいます。

平成 27 年は、戦後 70 年の節目の年でもあり、県民各位の関心も高く、同年 10 月には、開館以来の来館者数も 10 万人を超えるにいたりました。これもひとえに県民のみなさまのご支援のたまものと思います。

今後とも本館の運営にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

平成 28 年（2016 年）8 月

滋賀県平和祈念館館長 端 信行

目 次

はじめに	1
I 事業概要	
1 展示事業	
(1) 企画展示	3
(2) 特別企画展示	13
(3) 地域交流展示	14
(4) その他の展示	18
2 資料収集保存事業	
(1) 戦争体験聞き取り調査	20
(2) 収蔵資料の整理・保存	21
3 普及啓発事業	
(1) 戦後 70 年特別講演会	22
(2) 平和学習講座	22
(3) 大人のための歴史教室「戦時下の人々」	23
(4) 戦争体験を聞く会	24
(5) 戦争遺跡見学フィールドワーク「布引山麓の土製・コンクリート製掩体壕 群をめぐる学習講座と現地見学会」	26
(6) 平和を祈念する日事業「戦後 70 年を迎えて」	26
(7) 開館 4 周年記念事業	28
(8) 館長講座「自分史づくり講座」	29
(9) 映画上映会	30
(10) 体験学習イベント「そだてて、たべよう！戦時食」	31
(11) 「平和の学校・あかり」ピーススクール	32
(12) 平和を願う子どもピースメッセージコンクール	35
4 平和学習支援事業	
(1) 来館学習の支援	38
(2) 出前授業	38
(3) 地域への平和学習支援	39
(4) 資料の貸出による平和学習支援	39
(5) 戦争体験者証言映像の制作	41
(6) 資料の貸出・特別利用等	42
(7) その他	42
5 ボランティア活動支援事業	43
II 資料	
1 利用状況	45
2 広報活動	49
3 組織	51
4 決算	52
5 施設概要	53
6 利用案内	54
7 関係規程	55

I 事業概要

1. 展示事業

(1) 企画展示

第11回企画展示「滋賀県民の15年戦争」



第11回企画展示

- 会期 平成27年（2015年）6月27日～9月27日
- 会場 滋賀県平和祈念館企画展示スペース
- 関連展示 平成26年度新規収蔵資料展
- 開催趣旨と概要

昭和前半期に日本がアジアと太平洋で戦った戦争では、多くの県民が苦難に満ちた日々をおくった。その苦難は戦地へおもむいた兵士・軍属とその家族ばかりではなかった。その大きな犠牲の記憶は体験者のところに深く刻まれ、さまざまな品物として残された。終戦から70年を経た今年、先の戦争が滋賀県民にとってどのようなものであったかを、体験談と残された品物を通して総覧し、平和の尊さを確認する機会とした。



第11回企画展示チラシ 表面



第11回企画展示チラシ 裏面

○展示構成

「15年にわたる戦争」

15年戦争を象徴的にあらわすものとして当時の陸軍軍装を、戦争の経過と主だった出来事を当時の新聞紙面で展示した。



「国家総力戦」

戦時ポスターと戦時国債・戦時貯蓄の債権などを展示し、先の戦争が国民の人力と財力を総動員して遂行されたことを示した。



「県民にとっての戦争」

召集令状、在郷軍人会手帳、応召する姿として国民服、海軍制服、空襲被害の写真、八日市飛行場の掩体の写真等を展示し、戦争の戦闘行為に巻き込まれた県民のようすを示した。



「銃後の守り」

防空訓練・体制に関わる資料、勤労働員、陶製などの金属代用品、代用食・学童疎開、満洲国に関する資料を展示し、戦場の背後の県民生活の様子を示した。



「戦争の終わり」

4名の戦死者の遺影と遺品、引き上げに関する資料、シベリア抑留に関する資料、県内戦死者に関する資料を展示し、敗戦後の顛末を示した。



第12回企画展示「空襲と疎開」



第12回企画展示

- 会期 平成27年10月3日～12月20日
- 会場 滋賀県平和祈念館展示スペース
- 関連展示 平成26年度新規収蔵資料展
- 開催趣旨と概要

連合軍に敗退を続けた戦争末期、日本軍は米軍爆撃機が本土空襲を可能とするところまで後退した。本土決戦を辞さない日本軍部は、乏しい人材と資源を動員し、都会の学童を地方へ分散する方針を定めた。国民生活の場が戦いの場へ変わり、大阪市から滋賀県に疎開してきた約12,000人の学童の様子を紹介した。



第12回企画展示チラシ 表面



第12回企画展示チラシ 裏面

○展示構成

「15年にわたる戦争」

15年戦争を象徴的にあらわすものとして当時の海軍軍装を、戦争の経過と主だった出来事を当時の新聞紙面で展示した。



「本土にせまる連合国軍」

戦争末期の戦況として、日本軍が攻め込まれていく様子を図示し、国内の防空対策を説明した防空図譜を展示した。



「学童疎開」

滋賀県に疎開してきた大阪市の教員・学童、受け入れた寮母・寮長らの体験談を紹介し、関連資料と写真を展示した。



「建物疎開」

県内の重要施設を空襲被害から守るために建物疎開が実施された様子を、昭和 20 年代の空中写真で示した。



「空襲」

滋賀県に疎開した学童が住んでいた大阪の空襲被害を写真とビデオで紹介し、またパネルと家屋に残る弾痕で滋賀県の空襲被害を紹介した。



第13回企画展示『戦時下の滋賀師範—昭和18年の卒業生—』



- 会期 平成28年1月6日～6月19日
- 会場 滋賀県平和祈念館展示スペース
- 関連展示 平成27年度新規収蔵資料展
- 開催趣旨と概要

「滋賀師範」の名で親しまれた戦前の師範学校（現在の滋賀大学教育学部）を昭和18年に卒業した学生たちが、軍事政策に巻き込まれ、危険な飛行兵に志願し、また兵役に従事して、多くの方が生還の可能性がない特別攻撃隊に志願した様子を紹介した。



第13回企画展示チラシ 表面



第13回企画展示チラシ 裏面

○展示構成

「戦時下の滋賀師範」

当時の学生服、身分証、教科書、校舎（写真）を展示し、滋賀師範学校の概要を示した。



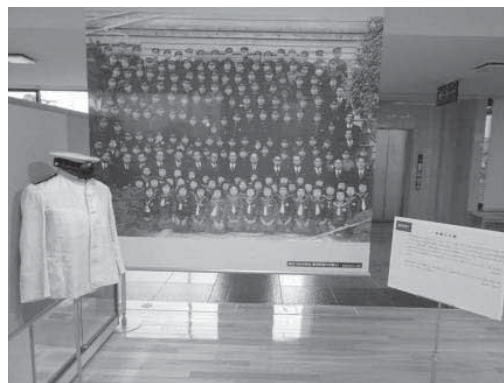
「昭和 18 年の卒業生」

展示で紹介した卒業生の略歴と、当時の学制、滋賀師範学校のカリキュラムを紹介した。また、宇野栄一さんと吉田信太郎さんの師範学校入学前の資料を紹介した。



「師範学校時代」

寄贈資料と写真、および卒業生の回想を中心に、当時の学生生活を紹介します。また、学生たちが飛行兵に志願することになった経緯を紹介した。



「陸海軍将校として」

入隊後の様子を、寄贈資料・写真・回想と手記により紹介した。



「戦争の終わり」

戦死された方の資料と、同級生の回想を展示した。



○関連展示

当館の資料は、県民の方からのご寄贈によって成り立っている。収蔵展示スペースでは、平成 27 年度に寄贈いただいた資料の一部を紹介した。紹介した資料は、在郷軍人会の委任状や『在郷軍人須知』、銀杯、「祝 特別幹部候補生合格」と書かれた日の丸の寄せ書きや航空機用羅針盤などである。



現代生活の中で楽しみとなっている旅行やスポーツは、戦時中どうだったのか。ここでは、ハイキング、陵皇巡拝、名所絵葉書やパンフレット、紀元二千六百年祭にまつわる資料を紹介した。戦時中、銃後の人々の心がける重大事は身体の練磨だとし、体位向上を掲げ推奨していた。また、紀元二千六百年祭の式典にまつわる奉祝会式次第や出席者の胸章リボン、贈答品を展示した。式典に関連する資料が多く、一大イベントだったことが伺える。



(2) 特別企画展示

第4回特別企画展示 「県民の戦争体験」

○会期 平成27年(2015年)3月25日～平成28年(2016年)3月6日

○会場 滋賀県平和祈念館エントランス

○開催趣旨

遠く離れて故郷を思った人、無事に帰ってくることを願った人、未来を託して海を渡った人。戦時下を生きた人々は、さまざまな場所で戦争を体験した。

本展示では戦中戦後の写真をとおして、地域の出来事、戦争体験者の思いや平和への願いに触れるきっかけとした。



第4回特別企画展示

(3) 地域交流展示

「戦争体験者証言映像上映」

○会期 平成 27 年（2015 年）4 月 1 日～5 月 30 日

○開催趣旨

昨年度制作した戦争体験者証言映像をより広く県民の皆さんに知ってもらおうと視聴スペースを設けて常時上映。同時に証言された 5 名の方の簡単な紹介パネルを展示した。



戦争体験者証言映像紹介パネル展

「ボランティアの活動紹介」

○会期 平成 27 年（2015 年）6 月 3 日～7 月 19 日

○開催趣旨

日頃、平和祈念館の活動を支えているボランティアの活動をボランティアグループ（戦時食グループ・紙芝居人形劇グループ・大凧作りグループ・手紙等解説グループ・語り部語り継ぎ部グループ）毎にパネルで紹介。実際に大凧まつりで使用されたミニ大凧も展示した。



ボランティア活動紹介パネル展

「彦根西高等学校の戦時に描かれた絵画展」

○会期 平成 27 年（2015 年）7 月 22 日～8 月 23 日

○開催趣旨

彦根高等女学校で戦時中に描かれたデザイン画、ポスター画など 100 点あまりを展示。相楽氏所有の戦争中の雑誌数点も同時に展示した。



彦根西高等学校の絵画展

「児童生徒向け体験型学習展示」

○会期 平成 27 年（2015 年）9 月 3 日～12 月 20 日

○開催趣旨

背嚢を背負った時の重さ体験や、戦争当時の音楽（軍歌）を聞いたり、戦時中の遊びなどを体験したりできる。銃剣銃などもハンズオン資料として展示した。



児童生徒向け体験型学習展示品一例

「八日市飛行場ミニ写真展」

○会期 平成 27 年（2015 年）9 月 5 日～平成 28 年（2016 年）3 月 31 日

○開催趣旨

当館に寄託された八日市飛行場の古写真が大正期末から昭和期初めのころに撮影されたもので、八日市飛行場の初期の様子を記録したのものとして重要な写真であることが判明した。これをうけて、寄託された写真を展観するミニ展示を開催した。このとき展示した彦根城の写真が航空写真としては最も古いものであることも判明した。



八日市飛行場ミニ写真展

「学習成果物展」

○会期 平成 28 年（2016 年）1 月 6 日～3 月 27 日

○開催趣旨

各校で行われた平和学習の成果物（模造紙にまとめたものの他、新聞形式やパンフレット形式でまとめたもの）を展示した。



学習成果物展

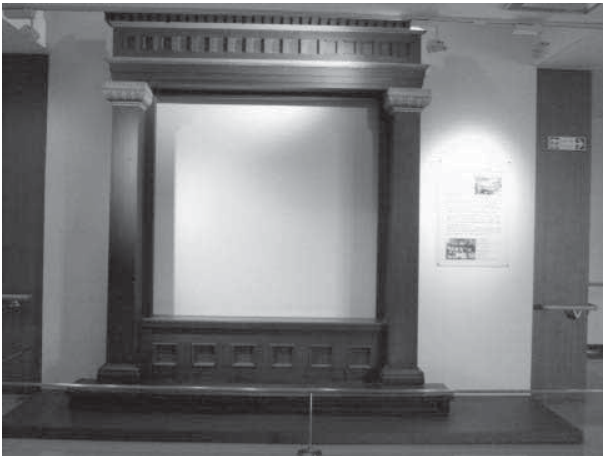
(4) その他の展示

「奉安庫」常設

- 会期 平成 26 年（2014 年）6 月 28 日～
- 展示場所 滋賀県平和祈念館 2 階 研修室横壁面
- 開催趣旨

当館の新たな常設展示資料として、大津市立上田上小学校より寄贈いただいた奉安庫を設置した。戦前の学校では、明治の終わり頃から、紀元節、天長節、新年、明治節の国家祝賀式典には、宮内省から各学校に貸与された天皇と皇后の写真（以下、「御真影」）に最敬礼し、「教育勅語」を奉読する儀式が執り行われていた。この儀式の際に使用する「御真影」と「教育勅語」を納める奉安所として、各学校の講堂や校長室などに奉安庫が設置された。

大津市立上田上小学校の奉安庫は、昭和 8 年（1933 年）10 月 7 日に竣工された講堂に設置されていたが、昭和 58 年（1983 年）、講堂が老朽化のために解体された際に奉安庫の枠のみ取り出し、校舎の階段の踊り場に移設された。平成 25 年（2013 年）には、設置されていた校舎の改修が決まったため、当館へ寄贈いただいたものである。



奉安庫展示

「平和をねがう子どもピースメッセージ絵画コンクール作品展」

○会期 平成 27 年（2015 年）11 月 7 日～平成 28 年（2016 年）1 月 31 日

○展示場所 滋賀県平和祈念館 2 階 ギャラリー

○開催趣旨

次世代を担う子ども達が、戦争と平和をテーマにした絵を描くことにより、戦争の悲惨さや平和の尊さを考えるきっかけとするとともに、子ども達が描く絵画を通して、広く県民に平和への想いを伝えることを目的として実施した。優秀作品 6 作品を含む応募のあったすべての作品を展示した。



絵画コンクール作品展

「ピースメッセージ展」

○会期 平成 28 年（2016 年）1 月 1 日～1 月 31 日

○展示場所 滋賀県平和祈念館 2 階 ギャラリー

○開催趣旨

9 月～12 月までに平和祈念館に来館された学校に「ピースメッセージ」と題して平和への思いや、感想を自由に書いてもらった。戦争に対する思いや平和への願いがつまったメッセージとなり、記入者は 1,868 名であった。



ピースメッセージ展

2 資料収集保存事業

(1) 戦争体験聞き取り調査

滋賀県平和祈念館では、戦争当時滋賀県にお住まいだった方、あるいは滋賀県にご縁のあった方を対象に、調査員2名を配置して戦事中の体験談の聞き取り調査を行った。体験内容は、兵士や看護師、民間人などの戦地体験や学徒動員、空襲等国内での体験などである。延べ109名の方々から体験談を聴き取りした。戦後70年を経て、体験者の方の高齢化が進む中、一人でも多くの方の体験談を残すことが求められている。

～平成27年度戦争体験聞き取り調査事例～

フィリピンミンダナオ島で生まれ、終戦前後に悲惨な逃避行

大城 昇さん(84才)＝米原市在住＝

大城昇さんは、両親が移住して麻の栽培、加工を営んでいたフィリピンのミンダナオ島ダバオで生まれました。両親の苦労はあったものの、仕事は安定し、比較的豊かな生活を送ることができていました。昇さんには弟と四人の妹がいました。

昇さんが日本人学校の3年生の時に、太平洋戦争が始まると、それまでの穏やかな生活は一変します。昭和16年(1941年)12月には、昇さんたち日本人は、小学校に監禁されることとなります。そして、日本軍がミンダナオ島に上陸し、昇さんたちは解放されますが、それまで平穏だった生活の場は次第に日米軍の戦場となっていきます。その間に、父親は現地召集で、日本軍の部隊に入隊しました。

昭和20年(1945年)3月、昇さんたちの卒業式が行われた日に、アメリカ軍の艦砲射撃が始まります。そしてアメリカ軍の上陸により、昇さんたちは、奥地への逃避行を余儀なくされます。アメリカ軍の空襲や砲撃が増え、状況はだんだん厳しくなっていきます。

「大砲の弾でもね、聞き分けるで。今の高射砲の弾がな、砲台の、大砲の弾がやな。(中略)ここへ当たるときは分かるんやな。ドンドンドーンという音がしてな、なかったらな、ヒューいわなんだなら、自分とこや。」

家族がひとつになって行動するなかで、長男の昇さんは一家7人の柱となって、母親を助けてその日その日を過ごすこととなります。それは、砲撃が命中し、近くで寝ていた他の家族が亡くなっていたことや、負傷して動けなくなった日本兵を同じ日本兵が深い谷底に投げ込んでいたことなど、辛い体験の日々でした。中でも最も悲しい出来事は、一番下の妹が、死んでしまったことでした。食べ物もろくにない生活で、栄養失調だったと昇さんは思っています。

終戦も分からずに続いた逃避行で、偶然に父親と再会します。そして、現地軍に捕まった時、その中に父親の工場で働いていた人がいて、身元を証明してくれたことで、無事にアメリカ軍の収容所に入ることができました。そして、昭和20年(1945年)10月に宇品に上陸することができました。

(2) 収蔵資料の整理・保存

滋賀県平和祈念館では、体験談にまつわる資料や戦争当時の滋賀県に関連する資料 35,000 点以上を収集し、その整理、保存を行っている。平成 27 年度は、新たに 2,459 点の資料を収集した。

寄贈資料は、各家庭で長期間置いておかれたものが多く、保存状態もまちまちである。また、戦争体験者からその子、孫世代の方々からのご寄贈が増えてきた。私たちは寄贈資料の状態を保ち、次世代へ継承していくためにも、資料の整理作業を継続して行っている。

平成 27 年度収集資料（一例）



軍袴（シベリア抑留時着用）
守山市 片山 三次さん提供



海軍双眼鏡
近江八幡市 森本 五郎さん提供



写真 遺骨迎え 大通寺へ向かう
長浜市 川村 晴子さん提供

3 普及啓発事業

(1) 戦後 70 年特別講演会

○開催日時 平成 27 年（2015 年）5 月 23 日 14:00～15:30

○参加者 370 名

○事業概要

講師に滋賀県出身のジャーナリスト田原総一郎氏を迎えて、「戦後 70 年に語ること」と題して講演を開催した。講演では、主に戦後日本がたどってきた道を、政治、経済等の側面から話が進み、時折、田原氏自身が経験された事柄を踏まえて、当時の記憶を回顧する場面も見受けられた。また、参加者との質疑応答も設け、活発な意見交換が行われた。



戦後 70 年特別講演会の様子



戦後 70 年特別講演会の様子

(2) 平和学習講座

「なぜ、アジア・太平洋戦争の開戦は回避できなかったのか」

○開催日時 平成 27 年（2015 年）9 月 5 日（土）13:30～15:00

○受講者数 受講者 56 名

○事業概要

一橋大学大学院社会学研究科の吉田裕教授を講師に迎えて、「なぜ、アジア・太平洋戦争の開戦は回避できなかったのか」と題して講演いただいた。テーマに対して、開戦までのプロセスを大日本帝国憲法下での政治システムの特質と変化、軍部や政府または宮中グループなどの動き、外交政策、メディアや議会の論調などについて多方面から紹介、説明いただいた。



平和学習講座の様子

(3) 大人のための歴史教室「戦時下の人びと」

○開催日時

平成 27 年（2015 年）9 月 26 日（土）、10 月 24 日（土）、11 月 20 日（土）

各回ともに 14：00～15：30

○講座内容および受講者

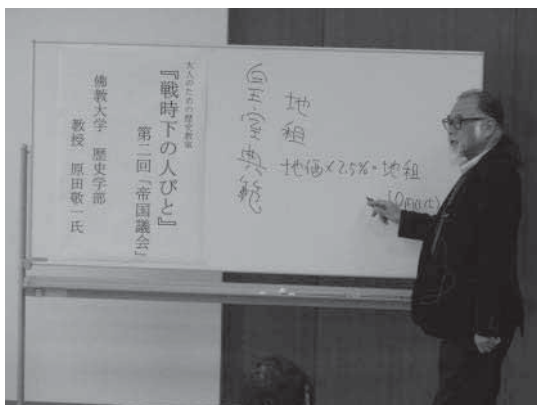
第 1 講「学校」－国民学校の教科書、児童・教員のくらし 受講者 34 名

第 2 講「帝国議会」－代議士や貴族院が戦争をいかに受けとめていたか 受講者 29 名

第 3 講「銃後」－町の人々が戦時体制の中、どのような生活をしていたか 受講者 25 名

○事業概要

佛教大学歴史学部の原田敬一教授を講師に迎えて、「戦時下の人びと」と題し、全 3 回の連続講座として開講した。各講座では、戦争が学校ではどう教えられ、どう受け止められていたか、帝国議会の議員たちは戦争をどう考えていたか、慰問袋をつくったり、金属供出した銃後の人々の様子を、滋賀県の史料を用いて紹介・説明いただいた。



大人のための歴史教室の様子

(4) 戦争体験を聞く会

【平成 27 年度より毎月 1 回実施】

○開催日時

平成 27 年（2015 年）5 月 17 日、6 月 27 日、7 月 26 日、9 月 27 日、10 月 18 日、11 月 22 日、12 月 20 日、平成 28 年（2016 年）1 月 24 日、2 月 21 日（いずれも 13：30～15：00 に開催）

○開催場所 滋賀県平和祈念館 研修室

○語り部、内容および参加者数

月日	語り部	内 容	参加者
5 月 17 日	野村 和男さん	「八日市航空分廠から戦場へ」	45 名
6 月 27 日	近藤 良子さん	「爆撃された学校」	35 名
7 月 26 日	小島 秀治郎さん	「守山列車襲撃事件」	56 名
9 月 27 日	福井 弘一さん	「海軍特別年少兵になって」	29 名
10 月 18 日	帛丘 美代さん	「厳しい戦中・戦後を生きた子どもころ」	22 名
11 月 22 日	小川 常三さん	「鉄道兵として戦地へ」	60 名
12 月 20 日	古道 由男さん	「地区防衛隊に入隊して」	23 名
1 月 24 日	猪田 清治郎さん	「満州からシベリア抑留を経て」	42 名
2 月 21 日	山田 正男さん	「近江実修工業学校から予科練へ」	49 名



「戦争体験を聞く会」の様子

【平和を祈念する日事業関連】

○開催日時 平成 27 年（2015 年）8 月 13 日、8 月 14 日、8 月 15 日

○開催場所 滋賀県平和祈念館 研修室・地域交流室

○語り部、内容および参加者数

月日	語り部	内容	参加者
8 月 13 日（午前）	小齊 伊佐雄さん	「14 歳で死を覚悟した終戦の日の夜」	47 名
8 月 13 日（午後）	北岡 吉朗さん	「昭和の戦争と反省した平和日本」	49 名
8 月 14 日	森田 景二さん	「大戦中の不思議な出会い、めぐりあわせ」	30 名
8 月 15 日	西澤 美津子さん	「戦時中の女学生の暮らし」	69 名



「戦争体験を聞く会」（「平和を祈念する日事業」関連）

【開館 4 周年記念事業関連】

○開催日時 平成 28 年（2016 年）3 月 12 日（土）10：00～15：30

○開催場所 滋賀県平和祈念館 研修室

○語り部、内容および参加者数

月日	語り部	内容	参加者
3 月 12 日	若林 良太郎さん	「伝える戦争、見つめる平和」	43 名



「戦争体験を聞く会」（「開館 4 周年記念事業」関連）

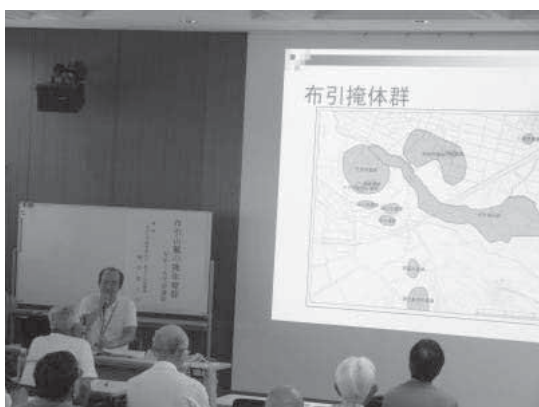
(5) 戦争遺跡見学フィールドワーク

「布引山麓の土製・コンクリート製掩体壕群をめぐる学習講座と現地見学会」

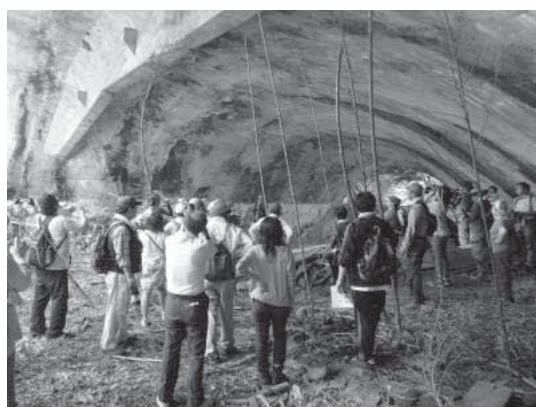
- 開催日時 学習講座 平成 27 年 (2015 年) 6 月 14 日 (日) 13:30~15:00
- 現地見学会 平成 27 年 (2015 年) 7 月 11 日 (土) 9:30~11:30
- 参加者 学習講座 32 名
- 現地見学会 25 名

○事業概要

東近江市教育委員会歴史文化振興課の嶋田直人氏を講師に迎えて、布引山麓の土製・コンクリート製掩体にかかわる学習講座と現地見学会を 2 回にわたり開催した。



学習講座の様子



現地見学会の様子

(6) 平和を祈念する日事業「戦後 70 年を迎えて」

- 開催期間 平成 27 年 (2015 年) 8 月 13 日 (木) ~15 日 (土)
- 参加者 延べ1,125 名 (開催期間中の来館者)
- 事業概要

8 月 13 日~15 日の期間、「平和を祈念する日事業『戦後 70 年を迎えて』」として、様々なプログラムを開催した。

その期間、4 人の戦争体験者の方を迎えて「戦争体験を聞く会」を開催した。また、終戦の日にあたる 15 日は、開館時間を 20 時まで延長し、「しろうさぎのかぜ朗読教室」による平和朗読会やボランティアのみなさんの協力のもと、紙芝居の上演、戦時食の試食、映画上映会など、1 日を通して様々な催しを実施した。また、期間中は子どもたちが平和への願いを込めて作ってくれたあんどんを 1 階ロビーに並べ、ライトアップした。

戦後70年を迎えて

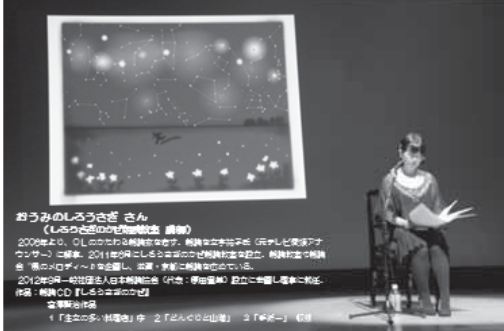


戦後70年を迎え、節目となる今年、メディアなどでも先の15年を振り返る戦争について今まで以上に注目を浴びています。滋賀県平和祈念館に集まり、戦時のことを学んでいただき、平和への願いを語りつぐことの大胆さを願っています。

<p>【8月14日(土)】</p> <p>10:30-12:00 戦争体験を聞く会 小栗伊佐雄さん(昭和6年生まれ) 「14歳で死なされた戦後の日の夜」</p> <p>12:00-13:00 西澤美津子さん 「戦争体験を聞く会」</p> <p>13:00-14:00 西澤美津子さん(次正15年生まれ) 「戦後の戦争に反省した平和日本」</p>	<p>【8月15日(土)】</p> <p>10:30-11:50 戦争体験を聞く会 西澤美津子さん(昭和6年生まれ) 「戦時中の中学生の思い出」</p> <p>12:00- 西澤美津子さん(次正15年生まれ) 「戦争体験を聞く会」</p> <p>13:00-13:50 戦争体験を聞く会 西澤美津子さん(次正15年生まれ) 「戦後の戦争に反省した平和日本」</p>
--	--

会場：滋賀県平和祈念館(京浜江南下中野町421番地)
お問い合わせは、滋賀県平和祈念館までご連絡ください。
電話：0749-46-0300 ファックス：0749-46-0350
メール：heiv@pref.shiga.lg.jp

朗読「知覧の遺書」 ～しろさぎのかぜ朗読教室～



おらみのしろさぎさん
(しろさぎのかぜ朗読教室 講師)
2009年より、OJのなかのなかの朗読教室で、戦時中女子学生(西澤美津子さん)にちなみ、2011年開始のしろさぎのかぜ朗読教室を立ち、戦時中女子学生(西澤美津子さん)の朗読教室として、朗読、戦争体験を伝える活動を行っています。
2012年開始のしろさぎのかぜ朗読教室(代表：西澤美津子)に引き続き、朗読教室の講師として活動しています。

戦争体験を聞く会 (開催日時)

- 【小栗伊佐雄さん(昭和6年生まれ) 8月6日 勢野市在住】
「14歳で死なされた戦後の日の夜」
小栗さんは、自身の戦争体験から戦争中の学生生活についてお話ししていただきます。また、当時(学校)の教員をされていたお母様の言葉も一緒に、戦争、戦後の日本の教育についてお話ししていただきます。
- 【西澤美津子さん(昭和6年生まれ) 8月6日 東近江市在住】
「戦時中の中学生の思い出」
お母様は、戦時中、戦後で経験されたことや戦争による影響を受け、戦後生きた方から戦争体験を聞いたことがらや戦後の学生生活についてお話ししていただきます。
- 【西澤美津子さん(昭和6年生まれ) 8月6日 日野町在住】
「大津市の平和祈念館めぐり」
西澤美津子さんは、当時の千代達での戦時中の様子や戦後の生活についてお話ししていただきます。
- 【西澤美津子さん(昭和6年生まれ) 8月6日 東近江市在住】
「戦時中の中学生の思い出」
西澤美津子さんは、戦争中の学生生活から戦争体験から戦争中の生活の様子や、その時に受けた影響についてお話ししていただきます。

会場：滋賀県平和祈念館(京浜江南下中野町421番地)
お問い合わせは、滋賀県平和祈念館までご連絡ください。
電話：0749-46-0300 ファックス：0749-46-0350
メール：heiv@pref.shiga.lg.jp

イベントチラシ



戦争体験を聞く会 (西澤美津子さん)



平和朗読会「知覧の遺書」



公開授業「平和学習講座」



平和のあかり点灯

(7) 開館4周年記念事業

- 開催日時 平成28年（2016年）3月12日（土）
- 参加者 154名（開催日の来館者数）
- 事業概要

開館4周年を記念して3月12日に「戦争体験を聞く会」や新作DVD「戦争証言2015」の上映会、当館職員による戦争体験聞き取り調査などの事業活動報告会、また子ども向け事業「へいわの学校・あかり」ピーススクール生による活動報告会など様々なプログラムを開催した。さらに当館のボランティアグループによる戦時食の提供や人形劇の上演など日ごろの活動成果を発表いただいた。

開館4周年事業 滋賀県平和祈念館

開館から4年を むかえます

滋賀県平和祈念館は、平成24年（2012年）3月17日に開館し、平成27年10月3日に来館者10万人を達成しました。

新作DVD『戦争証言』上映会や戦争体験を聞く会、当館職員の戦争証言、ボランティアグループの発表などを行います。

平成28年3月12日（土） 場所：2階 研修室

10:00～11:10	新作DVD『戦争証言』上映会
11:20～12:20	平和祈念館事業活動報告会 「滋賀県民の戦争体験」（学芸担当職員） 「戦争体験聞き取り調査」（調査担当職員） 「学校の平和学習支援」（教育普及担当職員）
12:20～12:25	ボランティアグループによる活動報告会 12:30～13:00… 戦時食グループによる戦時食提供（8階ロビー） 13:10～13:30… 歴史館・人形劇グループによる上演
13:45～14:00	「平和の学校・あかり」より ピーススクール生からの戦争発表
14:10～15:20	戦争体験を聞く会 若林 良太郎さん（大正14年生まれ） 「伝える戦争、見つめる平和」

戦争体験を聞く会

3月12日（土）14:10～15:20
若林 良太郎 さん（大正14年生まれ 長浜市在住）
「伝える戦争、見つめる平和」

若林さんは昭和17年に旧制中学を3か月跳り上げて卒業。その後、学徒勤労動員で上京し、軍需工場で働きながら復旦大学に通いました。その職場で見たのは日本軍が捕虜にしたイギリス人、強制労働と苦悶な待遇、暴力と粗末な食事に驚きました。

翌年には学徒出陣で召集され、青森県八戸の陸軍航空飛行学校へ。想像を絶する過酷訓練の後、パイロット養成訓練に回され、覚悟2年の訓練期間は燃料不足などで1年半に延滞されました。昭和20年に東京の立川航空隊に異動してからは米軍機の空襲に逃げ惑う日々を送られるなど数々の体験をされました。本会ではこうした体験を中心にお話いただきます。

若い世代の私たちが戦争を知ることに意味があると感じます。少しでも周囲に受け継がれたらと思います。語り継ぐ方が年々少なくなる中で、つら思いますが戦争を聞かせていただくにはとても貴重なものだと感じました。

これから未来に遠くまでいっせいで戦争がないようにするために歴史をしっかりと受け継いで、つなぐことが大切だと感じました。
（これまでの参加者の感想より）

昨年度の周年事業「戦争体験を聞く会」の様子

3月映画上映会「アウシュビッツ行き最終列車」 3月20日（日）13:30～ 2階研修室

監督：ガナ・ヴァロワール 出演：キコ・オン・ブルカバルト 他 時間：128分
あらすじ：ユダヤ人を死の「アウシュビッツ強制収容所」へと運ぶ列車、ラストトレイン。
第二次世界大戦末期、突如「ユダヤ人」という理由だけで、露骨な暴力で強制収容所に送られる人々の、新しい人間ドラマを描く傑作。

会場：滋賀県平和祈念館
（東近江市下中野町431番地）
お問い合わせは滋賀県平和祈念館まで、
電話：0749-46-0300
ファックス：0749-46-0350
メール：haiw@pref.shiga.lg.jp

■名神高速道路「八日市IC」から車で約10分
■近江鉄道新浜大津線新浜大津駅または近江八幡駅
乗り換え、近江鉄道八日市駅からバスで約20分
「近江大野・新浜大津」下車すぐ

イベントチラシ



ボランティアによる戦時食の提供



館職員の事業活動報告会



ボランティアによる人形劇



戦争体験を聞く会（若林良太郎さん）

(8) 館長講座「自分史づくり講座」

- 開催日時 毎月第1土曜日 14:00～15:30
- 参加者 延べ48名
- 事業概要

平成24年（2012年）7月から、自分史づくりをサポートする館長講座「自分史づくり講座」を月1回開催している。講座では、受講者自身が書き進めている自分史の原稿を持参し、館長が文章の表現方法など具体的な助言を行っている。

(9) 映画上映会

【平成 27 年度より毎月 1 回実施】

○開催日時

平成 27 年（2015 年）4 月 26 日、5 月 10 日、6 月 28 日、7 月 19 日、8 月 16 日、9 月 13 日、10 月 11 日、11 月 15 日、12 月 13 日、平成 28 年（2016 年）1 月 17 日、2 月 14 日、3 月 20 日（いずれも 13：30～15：00 に開催）

○開催場所 滋賀県平和祈念館 研修室

○上映作品および参加者数

月日	上映作品	参加者
4 月 26 日	「父と暮らせば」	11 名
5 月 10 日	「武器よさらば」	14 名
6 月 28 日	「菩提樹」「続菩提樹」	17 名
7 月 19 日	「TOMORROW 明日」	36 名
8 月 16 日	「紙屋悦子の青春」	48 名
9 月 13 日	「美しい夏キリシマ」	26 名
10 月 11 日	「エクレール お菓子放浪記」	25 名
11 月 15 日	「僕の村は戦場だった」	20 名
12 月 13 日	「大いなる幻影」	13 名
1 月 17 日	「えんどうの花」	26 名
2 月 14 日	「さよなら子供たち」	40 名
3 月 20 日	「アウシュビッツ行最終列車」	66 名

(10) 体験学習イベント「そだてて、たべよう！戦時食」

○開催日時 1回目：平成27年（2015年）6月7日（日） 9:45～12:00

2回目：平成27年（2015年）10月4日（日） 9:15～12:00

○参加者 1回目：32名

2回目：22名

○協力 平和祈念館ボランティア 戦時食グループ

○事業概要

1回目は、愛東マーガレットステーション隣接農園でサツマイモの苗植えを行った後、戦時中に食べられた野草を祈念館駐車場付近で観察し摘み取った野草のしおり作りを行う。また、最後に戦時食ボランティアの方が作った戦時のおやつを試食。2回目は、愛東マーガレットステーション隣接農園でサツマイモ掘りをし、採れたサツマイモで戦時食を作るワークショップを体験。



さつまいもの苗植え

（愛東マーガレットステーション隣接農園）



さつまいもの苗植え

（愛東マーガレットステーション隣接農園）



しおりづくり

（滋賀県平和祈念館 地域交流室）



さつまいもで戦時食づくり

（愛東コミュニティーセンター調理室）

(11)「平和の学校・あかり」ピーススクール

○開催日時 平成 27 年（2015 年）6 月 13 日、7 月 25 日、8 月 22 日、9 月 12 日、10 月 10 日、11 月 14 日、12 月 12 日、1 月 23 日の 8 日間

○会員数 小学 6 年生 11 名 中学 1 年生 1 名 中学 2 年生 2 名 合計 14 名

○事業内容

① 「開校式・平和学習」(6 月 13 日)

全 8 回にわたる事業の開校式を行った。事業の概要を伝え、オリエンテーションで自己紹介ゲームをした。また、館内見学を実施し普段見られない収蔵庫の見学も行い、最後はクイズラリーに取り組んだ。



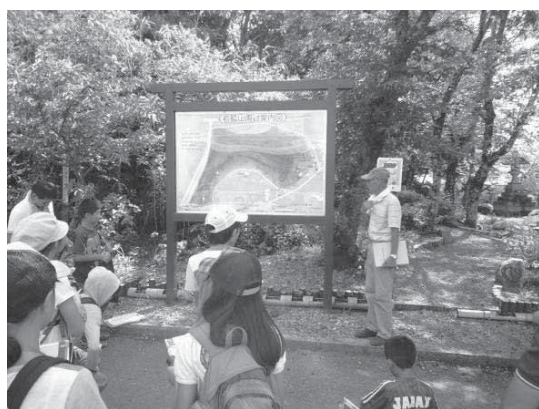
オリエンテーション（自己紹介ゲーム）の様子



収蔵庫見学の様子

② 「滋賀戦跡めぐり」(7 月 25 日)

岩脇まちづくり委員会の藤本伝一さんの案内で米原市岩脇の蒸気機関車避難壕を見学し、岩脇山を散策。県内に残る戦争遺跡にふれる事業を実施。（参加者 15 名）



岩脇まちづくり委員会の方の説明



避難壕見学

③ 「戦争記事の切り抜き作品作り」(8月22日)

戦争関連の記事を多く集めて、テーマ決め、カテゴリ分類、意見文の掲載など工夫してまとめた。講師は中日新聞社 NIE 事務局の職員 3 名で、夏休みの自由研究にも取り組めるようにと実施した。



新聞切り抜き作品作り

④ 「創造力アップ講座」(9月12日)

絵の描かれた 2 枚のカードの共通点を見つけ出し、それを説明するゲーム。知識以外に、ひらめきや柔軟な発想が試され、物事を幅広く多角的に見るようにと実施した。



創造カード(カルタ)遊びの様子



創造カード(カルタ)

⑤ 「戦争体験聴き取り調査(疎開体験)」(10月10日)

大阪から滋賀への集団学童疎開について学ぶ。調査前に聴き取りの心構えを聞き、実際の疎開体験者の方から、インタビュー形式で聴き取り調査をした。



調査員から調査に向けてのお話



聴き取り調査の様子

⑥ 「大阪城戦跡めぐり」(11月14日)

第5回で聞き取った疎開先である大阪の空襲について調べた。観光地である大阪城にも、たくさんの軍事施設があり、いまだに残るたくさんの空襲のあとや施設を見学。ピース大阪にも行き、展示品を見て戦争を多角的に捉えた。



大阪城内の空襲跡



今も残る第四師団司令部庁舎

⑦ 「ピース作品作り」(12月12日)

これまでの学習で学んだことをもとに平和への思いを発信しようとピース作品作りに取り組んだ。絵や詩、作文、粘土やプレゼンテーションなどさまざまな形式でまとめた。また、全員ではり絵作品に挑戦した。



ピース作品作り



ピース全体作品作り

⑧ 「作品発表・閉校式」(1月23日)

前回制作したピース作品をスクール生が発表。13名の児童が絵や詩、作文、粘土などの作品を披露し、ピーススクールに参加しての感想を含めて発表した。全体作品作りで作成したはり絵も披露した。

閉校式では、13名のスクール生に修了証書と記念品が授与され、8回にわたる戦後70年企画 平和の学校・あかり (ピーススクール) が閉校となった。



成果発表の様子



修了生の皆さん

(10) 平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール

○展示期間 平成27年(2015年)11月7日～平成28年(2016年)1月31日

○表彰式 平成27年(2015年)11月7日

○事業概要

次世代を担う子ども達が、戦争と平和をテーマにした絵を描くことにより、戦争の悲惨さや平和の尊さを考えるきっかけとするとともに、子ども達が描く絵画を通して、広く県民に平和への想いを伝えることを目的として実施した。今回、県内の小学校5年生から中学生を対象に作品を募集したところ、県内小・中学校13校から186作品の応募があった。

○入賞者






各賞	学校名	学年	氏名
ピース賞(小学校)	多賀町立多賀小学校	第6学年	小菅 みらい
ピース賞(中学校)	東近江市立永源寺中学校	第2学年	町田 鈴果
ハート賞(小学校)	近江八幡市立金田小学校	第6学年	三浦 名菜
ハート賞(中学校)	草津市立新堂中学校	第3学年	伊吹 奈々帆
オリーブ賞(小学校)	近江八幡市立金田小学校	第6学年	佐々木 美南
オリーブ賞(中学校)	近江八幡市立八幡西中学校	第1学年	池元 杏哉

※賞について

ピース賞・・・滋賀県平和祈念館の理念と合致していることや祈念館の事業を推進するうえで効果的な作品

ハート賞・・・制作者の平和への思いを画面に意欲的に工夫し、効果的に表現している作品

オリーブ賞・・・平和への思いを自分らしい発想や構想で表現し、線画や色使いの技能が優れている作品

各賞	作品	制作者の思い
ピース賞(小学校)		<p>この地球には、戦争や争い、学校に行けない、食事もできないなど、まだまだ幸せになれる国や人もいる。そこで、この言葉で一人でもこの世の中に振り向いてくれる人が増えてほしい。</p>
ピース賞(中学校)		<p>これは、私たちが日本で見ている空です。この平和な空が世界中に広がるように願いを込めて描きました。</p>
ハート賞(小学校)		<p>戦争を見た自分。戦争のおそろしさとかなしさでなみだがでている。</p>
ハート賞(中学校)		<p>青い鳥が世界中の国々に幸せを運んでくれるように、さらに国同士が仲良く結ばれるようにという思いを込めました。</p>
オリーブ賞(小学校)		<p>戦争で亡くなった女の子がつる(平和のシンボル)をはばたかせて地球から紛争がなくなるようエールを送っている。</p>

オリーブ賞(中学校)



1人1人が世界の1つ1つの命を大切にすることで命が救われ、世界の平和がおとずれるという意味です。

4 平和学習支援事業

(1) 来館学習の支援

○来館学校数 実績

	総数	小学校	中学校	高等学校
学校数	51 校	45 校	5 校	1 校
児童・生徒数	2,330 人	2,128 人	137 人	65 人

○主な方法

- ・ 展示見学
(学校が作成するワークシート
による調べ学習)
- ・ 館の職員による平和学習
- ・ 戦争体験者によるお話
- ・ 戦時食体験



来館学習での展示見学の様子

(2) 出前授業

○出前授業実施校 実績

	総数	小学校	中学校	高等学校	大学
学校数	74 校	52 校	12 校	8 校	2 校
児童・生徒数	7,946 人	4,356 人	1,453 人	2,035 人	102 人

○主な方法

- ・ 実物や写真・動画の提示
- ・ 体験談の紹介
- ・ 資料観察



学校での出前授業での様子

(3) 地域への平和学習支援

戦後 70 年の節目の年を迎え、改めて戦時のことを学ぼうとする機運が高まった 1 年であった。戦争を体験していない大人が増え、「子どもたち」とともに「大人」への語り継ぎが重要になることを踏まえて、公民館や地域の自治会などの団体などからの要望に応じた平和学習支援として、地域への出前授業を実施した。

平成 27 年度においては、24 団体、1,077 人の利用があった。

○主な内容

- ・「滋賀への空襲」
- ・「滋賀にまつわる戦争の記録」
- ・「戦争と滋賀」



地域での出前授業の様子

(4) 資料の貸出による平和学習支援

滋賀県平和祈念館では、学校や地域への平和学習を支援するために、実際に手にとって触れるハンズオン資料やパネル、アニメ画入りの戦時体験映像の貸出を行っている。

平成27年度は、一昨年に引き続き一般貸出向けの戦争体験者証言映像を 3 作品（5 人の戦争体験証言）制作し平成 28 年度から貸出を始める。

学校への貸出の傾向としては、授業で使うハンズオン資料や、視聴覚資料の貸出が多い。一般向けは、特に夏の時期にパネルの貸出が集中する。

○資料貸出しの実績

①学校への貸出 12件

区分	総数	小学校	中学校	高等学校
学校数	12 校	10 校	1 校	1 校
児童・生徒数	2,015 人	1,335 人	80 人	600 人

②地域への貸出 44件



○貸出資料の種類

- ① ハンズオン資料…千人針、臨時召集令状（複製）、出征たすき、防空頭巾、配給切符、慰問袋、鉄かぶと、ゲートル、国防婦人会たすき、いなご採り袋、雑誌「週刊少国民」（ラミネート版）、カルタ「戦ふ日本カルタ」（ラミネート版）、双六「大東亜共栄圏めぐり」（ラミネート版）出征のぼり（右写真）
- ② パネル…Aセット（16枚組）
Bセット（20枚組）
Cセット（16枚組）＜滋賀で学ぶ戦争の記録＞
写真・ポスター類（64枚）
- ③ 小学校国語科読み物教材「ひとつの花」対応セット
- ④ 視聴覚資料
 - ・滋賀県民の戦争体験証言ビデオ「記憶の湖（うみ）17本」
 - ・小中学校向けアニメ画入りの戦争体験証言映像
「大阪から来た女の子」、「滋賀県満州報国農場の若者たち」
 - ・2014年度と2015年度制作の戦争体験者証言映像（DVD版・BD版）
 - ・その他、戦争や平和に関するビデオ・DVD

(5) 戦争体験者証言映像の制作

戦争体験者の体験談を記録・保存するとともに、広く県民に戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶための映像教材として、委託事業によって制作した。一昨年のアニメーション、昨年度の戦争体験者証言映像に引き続き、今年度は5名の体験者の体験談を次の3本の映像にまとめた。

平成28年3月12日の『開館記念日事業』においてお披露目上映会を開催した。

『戦争体験者証言映像 戦争証言 2015』DVD・Blue-ray

- 「大陸に生きた子供たち」 奥村芳男さん・伊藤信男さん（26分）
- 「忘れえぬ戦禍の惨劇」 吉田貞次さん・大槻正次郎さん（24分）
- 「戦争に操られた学徒兵」 岩井忠熊さん（23分）

The image shows the DVD cover and an introductory page for the DVD '戦争証言 2015'. The cover features the title '戦争証言 2015' in large characters, with a subtitle '戦争体験者 証言映像' and a DVD logo. Below the title, there are three small portraits of the interviewees. The introductory page lists the three videos with their titles, durations, and interviewees, along with a brief description of each video's content.

戦争体験者 証言映像 戦争証言 2015

戦争体験者 証言映像 **戦争証言 2015** 映像内容のご紹介

映像 1 大陸に生きた子供たち [26分] 証言者 奥村芳男さん・伊藤信男さん

終戦間際、満州では不景気のソ連の侵襲によって、移住した日本人の多くが混乱に陥った。特に子ども達の一部には、家族とはぐれたり離れ妻にされたりし、命を落とす者もいた。しかしそんな中、中国人によって救われた命もあった。満洲国前期青少年義勇軍で満洲に行つた少年は、工場で出会った中国人に救われる。また戦とはぐれた幼い命は、建設の地にある中国人に保護された。長い間、大陸に暮らした日本の子ども達、複雑な胸中が語られる。

【証言内容】
戦争当時の満洲・満洲国前期青少年義勇軍 鞍山にあった製鉄所 印刷された中国人の言葉 ソ連軍侵襲と命の別れ 満洲の中で証言生活 早くから差別体験 偶然の出会ひからの日本帰郷

映像 2 忘れえぬ戦禍の惨劇 [24分] 証言者 吉田貞次さんと 大槻正次郎さん

戦争では多くの命が失われた。戦期間、ソビエト軍に捕らわれた日本人は、シベリアに連行され過酷な食料も与えられず、長い間過酷な労働を課せられた。極寒の中、決死と覚悟が死んでいった。一方、あの戦場では激しい戦闘で大勢の日本兵が犠牲になった。中でもシベリア戦は仕掛けを極め、圧倒的な兵力差の下、おびただしい数の日本兵が無残な死を遂げた。忘れることのない戦争の惨劇が語られる。

【証言内容】
戦時のソ連軍の捕虜 玉砕して死んだ日本兵 シベリア捕虜、過酷な生活環境と戦死 捕虜の中で日本人兵 シベリア戦での状況 野戦病院での日本兵 戦前のインパール作戦・白河惨劇の追憶

映像 3 戦争に操られた学徒兵 [23分] 証言者 岩井忠熊さん

昭和18年、悪化する戦況の中、多くの学生がガンを被験に持ちかえられた。学生たちは訓練所に送られ、軍によって兵士へと仕立てられていった。ある学生は、日々の訓練や教育に疑問を感じながら、しどろもどろをこなす日々を送る。ある時期作戦に参画する。その時隊員とは二三年の歳月がたった。今も忘れることのない戦争体験、特異な、長い時を経てまたこみ上げる「確かな訓練と特攻作戦への想い」が語られる。

【証言内容】
出陣学徒隊行きの思い出 戦時体制下の学生と軍隊 作戦日誌と軍の機嫌 真実に仕立てられる学生たち 隊員生活の厳しさ 戦時体制下の学生生活 戦時体制下の学生生活 戦時体制下の学生生活 戦時体制下の学生生活

先の大戦から70年、戦争を経験された方が少なくなり、戦争の記憶も忘れられつつあります。滋賀県平和祈念館では、貴重な戦争体験者のお話を映像として残すとともに、戦争の記憶を語り継ぎ、平和の尊さを学ぶための資料として証言映像を作成しました。

滋賀県平和祈念館

【映像の貸出し・お問い合わせ先】
映像の貸出しについてのお問い合わせは、滋賀県平和祈念館までお願いいたします。また貸出し本数に限りがありますので、ご了承ください。

滋賀県平和祈念館

〒525-0177 滋賀県東近江市下中郷A21番地
電話番号 0765-48-1788
受付時間 月曜日～水曜日 10時30分～16時30分
※休館日 祭日の場合はこの時間とする場合があります
E-mail: peace@pref.saga.lg.jp

戦争体験者映像『戦争証言 2015』チラシ

(6) 資料の貸出・特別利用等

平成 27 年度は、33 件の写真・資料の貸出・特別利用の申請が提出された。戦後 70 年であったため、地域での戦争関連の展示や、マスコミでの特集・コラム等が多く企画され、これらに展示・掲載するための利用申請が多かった。その他、研究目的の閲覧、親族・知人が関係する写真・資料の複写、教科書等への写真掲載などの利用申請が申請された。

(7) その他

戦争体験者の紹介

テレビ・ラジオ・新聞の各社から、戦後 70 年の企画として戦争体験者に取材したいという趣旨で体験者の紹介依頼が多く寄せられた。10 件の依頼に対して、当館が取材した戦争体験者の中から、のべ 23 名を紹介した。

5 ボランティア活動支援事業

当館では、開館に先立って平成 23 年度より当館の活動に参加いただけるボランティアの募集を開始した。平成 27 年度においては、新たにボランティア登録の申込があった方を対象とした「ボランティア登録講座」を 4 回開催（6、8、12、2 月）し、15 名の方が新たにボランティア登録をされた。平成 27 年度末現在におけるボランティア登録者数は 59 名で、年齢層は 20 代から 80 代の幅広い世代の方に登録いただいている。

具体的な活動内容としては、創作紙芝居・人形劇上演活動や戦時食体験活動、戦時中の手紙等を読みやすいよう解説する活動など、各グループの活動が積極的に進められている。また、開館周年記念事業などの館事業への協力や類似施設を訪問する研修会なども継続して行われている。

ボランティアの様々な経験に基づいた知識や技術、さらにはその主体的な活動を通して、当館の活動の幅は確実に広がり、多様なものとなっている。今後ともボランティア活動を通して、利用者と積極的に交流していただき、さらには『利用者と館とをつなぐかけ橋』の役割を担っていただくことを期待する。また、平和祈念館ではそのためのサポートを続けていく。

○ボランティア活動の紹介

来館者案内活動	館内での来館者との交流や案内をします。
語り部・語り継ぎ部活動	自らの体験や家族や体験者の方々から聞いた話をもとに、戦争体験を語り継いでいく活動をします。
戦時食グループ	食べるものがなかった戦争末期から戦後の生活苦を感じ、「食」の大切さについて考えます。
創作紙芝居・人形劇グループ	平和や戦争をテーマにした紙芝居や人形劇を創作し、上演する活動をします。
手紙等解説グループ	戦争中の手紙や日記などを、読みやすいように解説する作業をします。
聞き取りグループ	戦争体験者の方からお話を聞き、記録する活動をします。
情報紙制作活動	情報紙「平和の灯」を制作します。
大凧づくりグループ	東近江大凧まつりに向けて、ミニ大凧（2 畳）をつくり、平和への願いや当館の活動を PR します。



ボランティア登録講座



来館者への案内活動



創作人形劇の上演



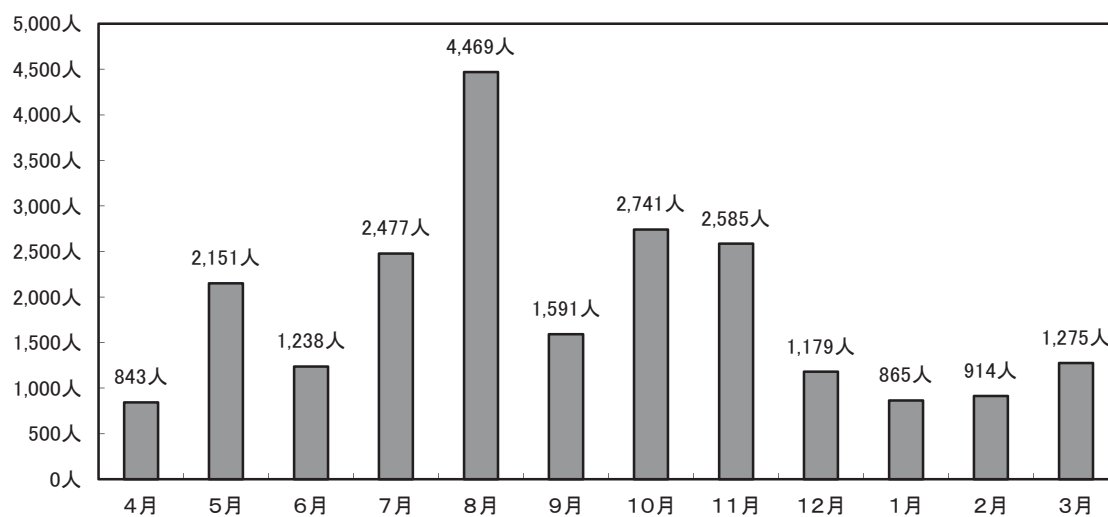
戦時食づくりワークショップでの活動

Ⅱ 資料

1 利用状況

(1) 月別来館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	開館からの 累計
開館日数	22日	25日	17日	27日	31日	22日	22日	23日	15日	21日	20日	23日	268日	1071日
来館者数	843人	2,151人	1,238人	2,477人	4,469人	1,591人	2,741人	2,585人	1,179人	865人	914人	1,275人	22,328人	109,531人
1日あたりの 平均来館者数	38人	86人	73人	92人	144人	72人	125人	112人	79人	41人	46人	55人	83人	102人



(2) 来館学校一覧

月	日	学 校 等 名 称	人数
5	28	東近江市立湖東第三小学校	34人
6	12	東近江市立市原小学校	24人
	18	米原市立伊吹山中学校	69人
	19	東近江市立八日市南小学校	77人
7	1	高島市立今津北小学校	21人
	2	東近江市立愛東北小学校	15人
	2	東近江市立愛東南小学校	24人
	10	東近江市児童支援室	7人
8	26	八日市・めぐみ保育園学童保育	15人
	28	栗東市立治田西小学校自主活動	50人
9	10	東近江市立御園小学校	74人
10	5	竜王町立竜王小学校	84人
	7	近江八幡市立武佐小学校	42人
	14	彦根市立平田小学校	50人
	15	東近江市立箕作小学校	73人
	16	甲賀市立伴谷小学校	76人
	21	愛荘町立愛知川小学校	64人
	23	愛荘町立愛知川小学校	32人
	28	東近江市立能登川北小学校	12人
	28	甲賀市立山内小学校	10人
	29	東近江市立布引小学校	39人
	29	三重県いなべ市立西藤原小学校	15人
	30	多賀町立多賀小学校	63人
30	東近江市立湖東第一小学校	33人	
11	4	東近江市立五個荘小学校	106人
	4	彦根市立稲枝東小学校	71人
	5	東近江市立八日市西小学校	43人
	5	豊郷町立豊郷小学校	43人
	6	高島市立高島中学校	15人
	11	東近江市立八日市北小学校	64人
	12	東近江市立湖東第二小学校	30人
	13	東近江市立能登川東小学校	77人
	13	長浜市立速水小学校	27人
	19	東近江市立蒲生西小学校	70人
	19	彦根市立鳥居本養護学校	16人
	24	東近江市立愛東南・愛東北小学校	39人
	25	東近江市立玉緒小学校	42人
	25	長浜市立浅井小学校	38人
26	東近江市立山上小学校	33人	
27	東近江市立湖東第三小学校	39人	
12	1	東近江市立蒲生北小学校	46人
	1	湖南市立下田小学校	44人
	3	東近江市立能登川西小学校	34人
	4	東近江市立蒲生東小学校	41人
	9	東近江市立能登川南小学校	119人
	10	彦根市立稲枝西小学校	44人
	10	草津市立山田小学校	54人
	10	湖南市立三雲東小学校	64人
16	愛荘町立秦荘東小学校	33人	
2	9	近江兄弟社高等学校・単位制	65人
3	17	東近江市立愛東中学校	30人

51校 2,330人

(3) 出前授業実施団体

月	日	学 校 等 名 称	人数
5	18	大津市立葛川中学校	3人
	20	大津市立日吉台小学校	27人
	26	米原市立伊吹山中学校	63人
6	3	県立伊吹高校	160人
	10	県立守山中学校	77人
	18	大津市立南郷小学校	92人
	25	東近江市立八日市西小学校	44人
7	3	草津市立草津第二小学校	130人
	6	近江八幡市立安土中学校	104人
	14	大宝東小学校	98人
	15	滋賀大学教育学部	80人
9	3	多賀町立多賀小学校	63人
	4	長浜市立長浜北小学校	133人
	25	高島市立新旭北小学校	59人
	28	大津市立晴嵐小学校	157人
	29	彦根市立城南小学校	151人
	29	守山市立小津小学校	55人
10	1	大津市立真野小学校	87人
	2	大津市立小松小学校	50人
	2	守山市立吉身小学校	125人
	6	高島市立マキノ南小学校	28人
	6	大津市立石山小学校	108人
	8	大津市立中央小学校	28人
	9	大津市立小野小学校	21人
	13	大津市立瀬田南小学校	160人
	13	大津市立青山小学校	186人
	15	彦根市立鳥居本小学校	123人
	15	彦根市立高宮小学校	78人
	16	大津市立瀬田小学校	177人
	19	湖南市立水戸小学校	76人
	20	近江八幡市立桐原小学校	73人
	20	近江八幡市立馬淵小学校	23人
	21	信楽高等学校	70人
	23	大津市立和邇小学校	91人
	26	大津市立田上小学校	93人
27	大津市立平野小学校	189人	
27	豊郷町立豊日中学校	66人	
11	2	大津市立上田上小学校	17人
	2	草津市立石部南小学校	65人
	4	愛荘町立秦荘西小学校	31人
	6	大津市立仰木の里小学校	39人
	6	草津市立矢倉小学校	114人
	9	彦根市立城西小学校	67人
	9	守山市立物部小学校	153人
	10	彦根市立河瀬小学校	72人
	10	長浜市立高月小学校	58人
	10	膳所高等学校	45人
	11	湖南市立菩提寺北小学校	39人
	12	彦根市立稲枝北小学校	15人
	16	長浜市立びわ南小学校	52人
	17	甲賀市立伴谷東小学校	58人
	17	大津市立木戸小学校	49人

月	日	学 校 等 名 称	人数
	18	東近江市立玉園中学校	115人
	20	彦根市立鳥居本養護学校	16人
	24	日野町立必佐小学校	58人
	25	日野町立南必佐小学校	17人
	26	守山市立守山小学校	194人
	27	愛荘町立秦荘東小学校	39人
	30	大津市立志賀小学校	145人
12	2	近江八幡市立老蘇小学校	20人
	7	近江八幡市立八幡小学校	134人
	8	野洲市立祇王小学校	95人
	11	彦根市立中央中学校	600人
	16	滋賀学園高等学校	500人
	18	近江兄弟社高等学校・単位制	80人
1	13	県立農業大学校	22人
	15	湖南市立日枝中学校	63人
	20	近江兄弟社高等学校2年生	340人
	21	湖南市立日枝中学校	65人
	21	日野町立日野小学校	100人
2	16	膳所高等学校2年生	440人
3	4	近江八幡市立八幡中学校	199人
	9	東近江市立船岡中学校	82人
	15	東大津高等学校	400人

74校 7,946人

2 広報活動

新聞等報道記録（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

月	日	内 容	報道機関
平27	4	11 モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ㊸慌ててつくった千人針	京都新聞
	25	モノが語る県民の戦争 県平和祈念館収蔵品から ㊸戦地に向かった慰問団	京都新聞
5	7	ピーススクール生募集	滋賀報知新聞
	19	戦争はいけないつくづく思う 「体験聞く会」始まる	京都新聞
	24	戦争への流れ 止めよう 田原総一郎さん 戦後70年講演	京都新聞
6	5	戦争体験語り継ぎ、平和の尊さ伝える 県平和祈念館 ボランティアを募集	朝日新聞
	14	戦争の爪痕 生きた教材に 東近江「平和の学校」	読売新聞
	16	掩体群の重要性説く 東近江 布引丘陵の戦争遺跡	京都新聞
	18	戦争体験を聞く会	滋賀報知新聞
	28	戦時中の生活を紹介 滋賀県民の15年戦争展	毎日新聞
7	2	滋賀県民の15年戦争	滋賀報知新聞
	6	戦時下15年の暮らし 県平和祈念館資料200点紹介	朝日新聞
	7	戦時の様子 安土中生物学ぶ 祈念館の職員ら授業	京都新聞
	10	戦時の県民振り返る 東近江・平和祈念館ポスターや記事200点	読売新聞
	12	戦争遺跡に巡る思い 飛行機隠した「掩体群」で見学会	中日新聞
8	3	戦争肯定の風潮伝える 満州事変-終戦、湖国の生活企画展	京都新聞
	7	70年前の悲劇児童に 東近江で原爆体験者語る	中日新聞
	7	戦争体験者のお話会について	F M滋賀
	8	うおーたんのわくわくこども体験隊 ～平和の大切さを学ぼう～	B B Cびわ湖放送
	13	女学生「戦時の絵画」 県平和祈念館に116点、23日まで	朝日新聞
	14	戦争の悲惨さ訴える 東近江で「体験を聞く会」	産経新聞
	15	戦争体験を聞く会	じんけん(2015年8月号)
	16	歴史と事実 学び続けて 平和祈念館で講演 戦時下の体験聞く	京都新聞
	16	県内各地で催し 平和への思い新たに	中日新聞
	16	県平和祈念館でさまざまな催し 朗読会・戦時食の試食体験・人形劇など	産経新聞
21	一緒にやろうよ 滋賀県平和祈念館ボランティアの会	京都新聞	
9	7	戦争体験を次世代に 県平和祈念館「聞き取りグループ」	中日新聞
	10	東近江で企画展 大正時代の航空写真など50点 上空から見た八日市飛行場	産経新聞
10	4	来館者10万人突破	毎日新聞
	14	疎開生活の写真72枚公開 東近江・県平和祈念館で企画展	産経新聞
	19	戦中の中学生生活 教職志す礎に	中日新聞
	27	疎開の記憶 笑顔と苦勞 東近江児童らの証言、写真展示	京都新聞
11	27	平和の訴え 絵画で 東近江 県内小中学生の186点展示	中日新聞
12	2	疎開の暮らし伝える 東近江 子どもの姿資料	中日新聞
平28	1	18 教師の卵が戦場へ 県平和祈念館で戦時下の滋賀師範展	中日新聞
	20	教員の夢 戦争に散る 滋賀師範学校卒業生	京都新聞
	28	ピーススクール修了 平和祈念館で8か月の学び	滋賀報知新聞
	29	平和祈念館コラム 新年のごあいさつ 戦後70年の振り返り、そして新たな年を迎えて	滋賀報知新聞
2	2	平和祈念館コラム 平和学習支援の取組について	滋賀報知新聞
	14	継承や啓発、体験活動など ボランティアに登録を	滋賀報知新聞
	16	平和祈念館ボランティア登録講座紹介	東近江ケーブルネットワーク
	17	戦争体験を聞く会	滋賀報知新聞
	18	戦争体験を聞く会	滋賀報知新聞

月	日	内 容	報道機関
3	1	平和祈念館コラム 開館から4年をむかえます。 -滋賀県平和祈念館開館4周年事業-	滋賀報知新聞
	6	戦争と平和を語りつごう 開館4周年で特別プログラム	滋賀報知新聞

3 組織（平成27年3月現在）

(1) 職員

館長	端 信行
副館長	北川 光明
専門員	伊庭 功
副主幹	名倉 康夫
主査	木村 直人
主査	高屋 大樹
主任主事	前川 啓史
嘱託員	坂井 秀男
嘱託員	日高 昭子
臨時的任用職員	中嶋 豊美

(2) 職員構成

区分	館長	行政職	学芸員	教育職	嘱託・臨職	合計
人数	1	3	1	2	3	10

(3) 滋賀県平和祈念館運営会議

座長	端 信行（滋賀県平和祈念館長）
委員	中島 伸男（東近江市戦争遺跡の会 世話役）
	中井 均（滋賀県立大学 教授）
	岸田 孝一（一般財団法人滋賀県遺族会 会長）
	吉岡 登（愛東地区まちづくり協議会 事務局長 愛東コミュニティセンター 館長）
	増田 隆（NPO 法人愛のまちエコ倶楽部 事務局長 あいとうエコプラザ菜の花館 館長）
	瀧澤 和久（東近江市企画部企画課 課長）
	畑 重三（滋賀県平和祈念館ボランティアの会 会長）
	中澤 光子（滋賀県平和祈念館ボランティアの会 副会長）

(4) 滋賀県平和祈念館展示等監修委員

委員	原田 敬一（佛教大学 教授）
	原山 浩介（国立歴史民俗博物館 准教授）

4 決算（平成27年度）

○歳入状況

（単位：円）

科目	決算額
基金繰入金	30,341,820
諸収入	1,655,457
合計	31,997,277

○歳出状況

（単位：円）

事業名	主な事業内容	決算額
管理運営費	施設維持管理費、施設運営費、事務費、広報費	22,338,592
展示事業	企画展示、特別企画展示、地域交流展示	2,144,940
資料収集保存事業	収蔵資料防虫防かび対策、研究図書購入、収蔵資料等デジタルデータ管理・公開システムの運用	2,447,167
普及啓発事業	平和学習講座、戦争体験を聞く会、戦争遺跡見学FWへいわの学校・あかり	1,405,011
平和学習支援事業	平和学習支援教材作成	3,661,567
合計		31,997,277

5 施設概要

○所在地 滋賀県東近江市下中野町 431 番地

○建物概要

構造 鉄筋コンクリート 2階建
敷地面積 2,864.00㎡
延床面積 3,115.45㎡
1階 1,759.03㎡
2階 1,356.42㎡

○開館年月日 平成 24 年 3 月 17 日

○平面図



6 利用案内

- 入館料 無料
- 開館時間 午前9時30分から午後5時
- 休館日 月曜日および火曜日（ただし祝日にあたる場合は開館）
年末年始（12月28日～1月4日）
※その他、業務の都合により休館する場合があります。
- 駐車場 約50台（無料）
- アクセス



- ・名神高速道路「八日市 I C」から車で約10分
- ・JR 琵琶湖線(東海道線)彦根駅または近江八幡駅乗り換え、近江鉄道八日市駅からバスで約20分「愛東支所・診療所前」下車すぐ

7 関係規程

滋賀県平和祈念館の設置および管理に関する条例

平成 23 年滋賀県条例第 48 号

(設 置)

第 1 条 県民に戦争の悲惨さおよび平和の尊さを伝えることにより、平和を願う豊かな心を育み、もって平和な社会の発展に資するため、滋賀県平和祈念館（以下「平和祈念館」という。）を東近江市下中野町に設置する。

(業 務)

第 2 条 平和祈念館は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 県民の戦争に関する体験の記録その他の資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「資料」という。）を収集し、保管し、展示し、および利用に供すること。
- (2) 平和を願う豊かな心を育むために必要な普及啓発を行うこと。
- (3) その他平和祈念館の設置の目的を達成するために必要な業務

(開館時間等)

第 3 条 平和祈念館の開館時間は、午前 9 時 30 分から午後 5 時までとする。

2 平和祈念館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日および火曜日（国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日である場合を除く。）
- (2) 12 月 28 日から翌年の 1 月 4 日までの日

3 知事は、必要と認めるときは、第 1 項に規定する開館時間を変更し、または前項に規定する休館日を変更し、もしくは臨時に休館日を定めることができる。

(特別観覧の許可)

第 4 条 平和祈念館が保管する資料の熟覧、模写、模造、撮影その他の利用（以下「特別観覧」という。）をしようとする者は、規則で定めるところにより、知事に申請し、その許可を受けなければならない。許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 知事は、前項の規定による申請があった場合において、次の各号のいずれかに該当するときは、同項の許可をしないことができる。

- (1) 平和祈念館における秩序を乱し、または善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) 資料または平和祈念館の管理上支障があると認められるとき。
- (3) その他特別観覧を許可することが適当でないと認められるとき。

3 知事は、第 1 項の規定による許可をする場合においては、資料または平和祈念館の管理上必要な限度において、条件を付すことができる。

(特別観覧の許可の取消し等)

第 5 条 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、前条第 1 項の規定による許可を取り消し、または特別観覧を制限し、もしくは特別観覧の停止を命ずることができる。

- (1) 前条第 1 項の許可を受けた者（以下「特別観覧者」という。）が詐欺その他不正の行為によって同項の許可を受けたとき。
- (2) 前条第 2 項各号のいずれかに該当することとなったとき。
- (3) 特別観覧者がこの条例またはこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。
- (4) 特別観覧者が前条第 3 項の規定により付された条件に違反したとき。
- (5) 当該許可に係る資料が災害その他の事故により特別観覧に堪えなくなったとき。
- (6) その他知事が特に必要と認めたとき。

(委 任)

第 6 条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は、規則で定める。

付 則

この条例は、平成 24 年 3 月 1 日から施行する。ただし、第 2 条第 1 号（資料の展示および利用に係る部分に限る。）および第 4 条の規定は、同月 17 日から施行する。



滋賀県平和祈念館 年報 第4号 (平成27年度)

発行日 平成28年(2016年)8月1日
編集・発行 滋賀県平和祈念館
〒527-0157 滋賀県東近江市下中野町431番地
TEL 0749-46-0300/FAX 0749-46-0350
E-Mail heiwa@pref.shiga.lg.jp
印刷 東呉竹堂(ひがし印刷)
